

上智大学 文学部英文学科へ ようこそ！



Q. 英文学科の勉学とは？

A. ① 英語と日本語の運用能力の向上を図る

英文学科で第一に勉強するのは英語と日本語です。英語と日本語のネイティブ・スピーカーの教員の指導のもと、1年次には“Morning English”，“Reading & Research”，“Discussion & Presentation”，2年次にはこれらの授業をさらに高度にした“Critical Reading”，“Writing Workshop”，“Sophomore Seminar”，3・4年次には上級科目“Advanced Academic English”と“CLIL-based Seminar”で、2言語を徹底的に学びます。この体系的語学カリキュラムで勉強することにより、英語の4技能（話す・聴く・書く・読む）と日本語の表現力をバランスよく伸ばします。

英語のネイティブ・スピーカーの教員が担当する授業は、スキル・クラスだけでなく、専門の講義や演習の授業も英語で行われます。入学したばかりの1年生のなかには、英語による授業をあまり理解できない人もいますが、確かな方法論をともなったカリキュラムに基づき、しっかり勉強を続けていくことにより、理解度は着実に上がります。

※科目名は2026年度のもので、2027年度に変更の可能性があります。

A. ② 3年次からは3コースに分かれて専門的な学問領域へ

1年次、2年次に土台をつくる基礎科目をいくつか履修した後、3年次から学生は下記の3つのコースに分かれ、専門科目を演習形式で重点的に履修していきます。

(a) British Studies Course

イギリスの小説・劇・詩・評論などの読解・分析・解釈を通じて、それらの文学作品を生んだイギリスの文化、歴史、思想などを深く探究し、批判的思考を養います。

(b) American Studies Course

アメリカの小説・劇・詩・評論などの読解・分析・解釈を通じて、それらの文学作品を生んだアメリカ合衆国の文化、歴史、思想などを深く探究し、批判的思考を養います。

(c) Language Studies Course

英語の歴史・語源・音声・文法などを専門的に勉学し、英語という言語の特徴を明らかにするとともに、CLIL等の英語教育法やICTを活用した授業を行う方法を学びます。

また、3コースに関連した、様々なテーマを個別に扱う選択科目が揃っていますので、学生は自分の興味に沿った授業を選択し、関心を深めます。その他、翻訳・言語表現の授業では、翻訳の理論と実践を学ぶ機会もあります。

A. ③ 英文学科で得られるもの

英語で書かれたテキストを読み解き、読みとった内容について日本語や英語で意見を交わし、ディスカッションすること、図書館やデータベース等にある数多くの文献や資料のなかから適切なものを探し出し、それらを十分に読みこなすこと、そして自己の思考を論理的に構成していき、最終的には自己の解釈や主張をレポート・論文・発表という形で表現する—これが英文学科での勉学の基本的な方法です。4年間の勉学の総決算として、英文学科では4年生の全員が卒業論文を作成します。教員の個別指導を受けながら、自分の選んだテーマについて1年間かけて追究し、規定の書式に則ったアカデミックな論文に仕上げます。

英文学科の教育、勉学が目指すところは、表面的な英語マスターではなく、歴史・文化・言語および人種・ジェンダー・階級・共同体・家族・自然・宗教・戦争・自我、といった様々なテーマが複雑に絡み合うテキスト、つまり広い意味での「文学」を対象に据えた知的訓練を行うことを通して、高度な論理的・批判的思考力を養うことです。英文学科でそのような知的訓練を受けた学生は、卒業後にどのような職業につこうとも、自分の力で様々な問題に取り組み、解決していくことができるようになっているはずです。

Q. 留学は可能ですか？

A. 上智大学には、3週間の短期留学から1年間の長期留学まで、日本の大学でも随一の様々な留学プログラムがあり、英文学科としても留学を推奨しています。学内の交換留学試験に合格すれば、最速で2年生の秋から1年間の留学が可能になります。英文学科では、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどの英語圏の大学に留学する学生が多いですが、英語で授業が行われているスウェーデン、スペイン、イタリア等、ヨーロッパの大学や、アジア各国への留学も増えています。留学時期や単位換算など、条件を満たせば、英文学科での3年間と外国での1年間の合計4年間で卒業することも可能です。

Q. 教員免許は取得できますか？

A. 中学・高校の1種免許を取得できます。英文学科の英語教員養成プログラムは、英国の大学院プログラムに基づく国際基準の内容と水準になっています。具体的には、英語の構造・使用・習得・教育に関する理論や原理を体系的に学び、その知識を活用して教材作成・指導計画・授業実践をワークショップ形式で身につけていきます。

Q. 卒業後の進路は？

A. 進路は多種多様です。就職先としては、情報通信業、運輸業・郵便業、製造業、保険、銀行、商社、製造業、新聞、出版、広告、サービス業など非常に多岐にわたっています。中学・高校の英語教員になる人もいますし、上智や他大学の大学院や外国の大学院に進学して勉強を続ける人もいます。このことは、いかに英文学科での学びが汎用性が高く、社会で通用する力をもたらすものであることを端的に示しています。



← 英文学科HPはこちらからご覧いただけます。
<https://fh.sophia.ac.jp/elit>



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智英文生が語る“いま”と“これから”

Kさん（2年生・女性）
英語教育、CLIL*に興味を持ち、
上智英文へ入学。
上智の多様性や英文での
学びに刺激を受け、
自分をアップデート中。



Nさん（2年生・女性）
学業、ダンスサークル、
塾講師のアルバイトに
励む日々。
何事にも手を抜かずに
頑張っています。



Aさん（2年生・男性）
来年の留学に向けて、
勉学に集中。
大学で英文学の魅力を知り、CLILにも
興味を持ちました。



*CLIL（Content and Language Integrated Learning）とは「内容言語統合型学習」の略称で、様々なテーマや教科科目を外国語で学ぶ教育方法のこと。

上智英文に**入学した理由**を教えてください。



国際性豊かなところで学びながら自分の視野を広げたかったことと、**上智は少人数で one campus**なので、色々な人とのつながりを大切にしていきたいというところに魅力を感じて上智に入学しました。

英語を使う学科は上智にたくさんありますが、**英文学を通して様々な表現や歴史的・文化的背景への理解を深める**ことが英語を学ぶ上で大事だと思ったので英文学科を選びました。また英語教育にも興味があり、日本の教育だけでなく、海外の教育方法についても学びたかったので、**上智がCLILの研究に力を入れていて、環境も整っている**というのも大きな決め手になりました。



将来は英語関係の仕事に就きたいと思っていたので、**英語に力を入れている上智大学**を中学高校の時から進路先として視野に入れていました。英文学科を選んだ理由としては、高校生の頃、地域の無料塾で中学生に英語を教える活動をして、人に教えることが好きだということに気づき、教員を将来の選択肢として考えるようになったからです。

英文学科は**英語の教員免許を取れる**のが私の中で重要なポイントでした。また英語教育のメソッドを学ぶことができたり、CLILや第二言語習得にも興味があったので、それらを学ぶことができる英文学科に進学しました。



上智大学に入学した理由が、まず高校生の時に一番英語が好きだったことです。**上智は少人数クラスが多く、英語が得意な人や海外高校出身者がいる**ので、その環境の中で学びたいと思いました。

僕は高校時代は部活に打ち込んでいて、本を読んだり、文学作品に触れたりすることはなかったのですが、そのような自分にとって**未知の領域を英語を通して学べる**英文学科を選びました。

皆さん共通して、少人数であるところに上智大学の魅力を感じているんですね。Kさん、Nさんは英語教育に興味があって、Aさんは未知のものを得意なもので学べるので、英文学科に進学されたんですね。

では次に**学業とプライベートの両立**について教えてください。教職課程やアルバイト、部活・サークルなどをされていると思います。



家庭教師のアルバイトをしたことがあります。家庭教師でCLILを活用できそうだったので。英文学科は課題が多いので、アルバイトとの両立は難しかったのですが、両立させるために無駄な時間を削ろうと思い、今でもテスト前は特に、**SNSを見るのをやめて、できた時間を勉強や宿題に充てています**。

アルバイトは辞めたのですが、それは留学準備のためです。交換留学にはTOEFLのスコアが必要なので、その勉強を頑張っています。



私はダンスサークルで週3回、毎回3時間の活動をしています。アルバイトは塾講師を週2コマ。結構忙しい方だと思うのですが、ある程度忙しい方が全力でやろうという気持ちになれるタイプです。

両立のコツは**毎回の講義は集中すること**と、スケジュール帳アプリで**1週間のうちにやらなければならないことを逆算**して、何をいつまでに終わらせるかを毎週初めに決めて、課題をやったり、勉強したりというのを徹底しています。

あとは2限の授業の日も1限がある日と同じ時間に起きて勉強しています。**隙間時間をうまく使う**ことを大切にしています。

サークル活動はあくまで任意活動なので、サークルが忙しかったから課題ができなかった、勉強に力が入らなかったという考えは絶対に持たないようにしています。



私は4年間の限られた時間で、できるだけ**自分の力を伸ばしたり、新たな経験をしたい**という思いがあるので、学業を優先しつつ、教育に関わるアルバイトを色々やっています。自分の得意不得意を学内だけでなく、学外でも知りたいと思っています。

両立するには**計画的に行動**することが大切だと考えていて、週の予定はもちろん、**4年間の中でいつ何をしたいか**ということを大まかに決めています。日々自分の気分と相談しながら、留学やインターンなどの大きな計画と細かな計画を立てています。

計画は1年生の頃から立てようと考えていたのですか？



大学に入る前から、**自分はどういう人になりたいのか、どういう学びをしたいのか**というのを考えていました。その意味で、上智英文は自分の目標に近づけるのに良い選択だったと思います。

皆さんは上智英文に入ってから、何かの考えが変わった、もしくは強まったなどありますか？



上智に入って、みんな色々な考えがあって、全然違う生活をしていて、自分が「これだ」と思っていたのが全てではないということを感じました。**より幅広く見なければいけない**と思っています。



僕は**文学作品が想像より楽しい**と思いました。例えば『ハムレット』の授業で昔の英語の文構造を取るのが楽しかったです。最近感じたのは、高校生までは文学は本をひたすら読むイメージがありましたが、それと同じくらい**歴史的背景、イギリス史、アメリカ史を学ぶことも大事**なのだと思います。文学単体よりもっと幅広く学ぶという点で視点が変わりました。



高校の時までは英語の文章を読んでただそれを和訳するという受験で正答率を上げるための学び方でした。上智英文に入って、単に英語を読むだけではなく、**一文に含まれている意味や、そこにある作者の思いなどを考えてディスカッションをする**のが楽しく、ただ和訳をするだけではない英語の読み方を学べているのが、自分にとっては大きいです。

ところで皆さん**CLIL**に興味があるようですが、元々知っていたのでしょうか？



高校時代の無料塾で英語教育に興味を持ち、今の中学高校の受験のための英語教育を改善していくにはどうしていけばいいかと調べた時にCLILがありました。



私の場合は高校でCLILが導入されていて、そこから英語教育に興味を持って、メソッドを調べていく中で興味を持ちました。



僕は大学に入ってからCLILを知りました。家庭教師をやる過程で人に教えるのが楽しいと思って教職課程を取りました。

ありがとうございます。
それでは**将来の夢や目標**、そしてそれに向けてどのように励んでいきたいか、ぜひ教えてください。



まだ明確ではないのですが、教職課程を取っているので**教員を視野に入れて**います。ですので、教職科目を最後まで取り切ること、塾のアルバイトは卒業まで続けたいのと、ダンスサークルも引退まで頑張りたいです。自分の中で「やり切った」という結果を出したいので、**何事も中途半端にならずに今やっていることをやり切ろう**と思います。



今後はより英語教育を深めて、その知識を生かせるような形で**社会に貢献**したいです。大学の学びにとどまらず、色々な経験を積んで、様々な人と関わっていく中で**自分を成長させたい**と思っています。今後もっと充実させるために、新しいコミュニティにも積極的に参加してチャレンジしたいと思います。



僕も将来の夢の一つが**英語教師**なので、教職課程などの授業を一生懸命やりたいと思います。まずは来年の**留学**があるので、それを実現させるために、TOEFLを頑張りたいです。あとは**大学院進学**も視野に入れていきます。

皆さんの夢、目標、どれも素敵ですね！
では最後に、**ずばり一言**、今後どういう人になりたいか、お願いします！



何かの分野でずば抜けた人になりたいです！



幸せに生きています！自分が幸せに生きる中で、他者にも良い影響を与えられる人になりたいです。



他の人と比べるのではなく、自分が良いなと思った自分の人生を歩みたいです！

どうもありがとうございました！
上智英文での学びを通して、夢を叶えたり、目標を達成できることを願っています。
皆さんの今後のご活躍を期待しています！

